

## 日本小児感染症学会若手会員研修会第6回瀬戸内セミナー

## 参加者の取り組み、交流などについて

多 屋 馨 子\*

日本小児感染症学会研究教育委員会主催の若手セミナーは、今年で6回目となる。今年、岡山大学の小田慈先生を中心とした先生方の多大なご尽力により、瀬戸大橋と瀬戸内海の島々を一望できる児島市で開催された。

このセミナーに受講生としての参加経験があって、今後の小児感染症分野を担っていくことが期待されるジュニアチューターの先生が6名参加され、活気あふれる会となった。over 50'sの私は、少し後方から全体を眺めるよい機会をいただいた。

受講生の先生方にとっては、事前の情報収集から初日の講義、夜の情報交換会、夜中遅くまでのグループワーク、2日目の各グループのプレゼンテーション、緊張あり喜びありチーム表彰、その後の論文作成に至るまで、短期間の間に集中した活動がなされたと思う。他施設の様子を知ることができ、また、普段から疑問に思っていたことにも回答を得て、帰路につかれたことを期待している。多くの仲間に出会えて、気軽に質問できる環境につながられたらだろうか。

このセミナーが開催されていた時期に、急性弛緩性麻痺の症状を認める小児例が、全国各地で発

生していた。このセミナーを受講していたお一人の先生から、9月下旬に1本のメールをいただいた。急性弛緩性麻痺を呈する小児例から、エンテロウイルス D68 遺伝子が PCR 法でみつかったというものである。きわめて重要な情報であったので、病原微生物検出情報 (IASR) へのご寄稿をお願いしたところ、ご快諾いただき、現在、国立感染症研究所の HP にも掲載されているので参考にしたい<sup>1)</sup>。

全国の先生と顔がみえる関係にあるというのは、感染症の危機管理体制としてはきわめて重要である。今後もこのセミナーを通して知り合いになった仲間を大切に、小児感染症分野の臨床・教育・研究がますます発展することを期待している。

## 文 献

- 1) 豊福悦史, 益田大幸, 谷口留美, 他: エンテロウイルス D68 型が検出された, 急性弛緩性脊髄炎を含む 8 症例—さいたま市, IASR 36: 226-227, 2015 (2015 年 11 月現在 URL: <http://www.nih.go.jp/niid/ja/id/2335-disease-based/a/ev-d68/idsc/iasr-news/6004-pr4286.html>)

\* \* \*

---

\* 国立感染症研究所感染症疫学センター